



学校だより (6)

事務所 947-3111 ・ 授業日 291-1591 ◇<http://www.hjschl.org> ◇e-mail info@hjschl.org

いのちを大切に

校長 福原輝幸

私の身体の中に、もう一人の生命が宿ったのを知った時、喜びのあまり涙が溢れたのを今でもはっきりと覚えています。

そして、目の前の初めて体験する我が子を抱き、やっと会えた喜びで強く抱きしめたかったけれど、あまりにもわかく、そして壊れてしまいそうなシャボン玉のようで、手にふんわりと乗せてもらったのを今でも覚えています。

私は、この生命の誕生に「私たちのために生まれてきてくれてありがとう」との想い、そして「元気で力強く育てほしい」という願いとともに、我が子を見つめ「何があっても守るからね」と母と子の最初の約束事を交わしました。

この想いから15年。

今でも変わらず我が子は、親にとって大事な宝物。だからこそ「あなたも自分自身を大事にしてね」と伝えたいのです。

躰(しつけ) = 身を美しく = しつづけること

子どもは、親の「言う通り」にはなりません、親が「する通り」になるものです。

近年、親の背中を見て育てる機会が少なくなりました。子どもを躰る場合、口をすっぱくして言い聞かせるよりも、親が手本を示すことにより、子どもの態度は大きく変わって行きます。

まず、親がやってみせる(手本を示す)
次に、言って聞かせる(説明する)
そして、させてみる
(実際に行動に移させる)
最後に、ほめる(自信をつける)

このサイクルの中で、子どもはその年齢に応じた階段を昇って行くのです。

私たちが昇ってきたはずです。

家にかえると

授業がおわった
カバンをしょって
とんで家にかえり
とてもうれしいことを
母さんに話した
「きょうのそうじとてもよくできて
先生にすごくほめられたんだ」
ところが、母さんは
ちっともよろこばない
母さんはいつも聞くんだ
「勉強のほうはどうなの」と

(林 清泉)

一言

「先生が、保護者を育てる」また「保護者が、先生を育て、先生は育つ」と思っています。

学級懇談会を契機にして、保護者と先生との信頼の絆を太く、大きく育てて下さい。